

平成 24 (2012) 年度 事業報告

(平成 25 年 5 月 31 日理事会議決、平成 25 年 6 月 13 日評議員会承認)

I. 公益財団法人の記録

1. 役員等の異動

平成 24 年 6 月 7 日	就任	理事 11 名
	退任	監事／原田 隆、評議員／藤原正寛
	選任	監事／藤原正寛
平成 24 年 6 月 18 日	退任	理事長／田畑貞寿、専務理事／亀山 章
	選任	理事長／亀山 章、代表理事／田畑貞寿
平成 24 年 7 月 23 日	退任	理事／田畑貞寿
	選任	専務理事／吉田正人、顧問／田畑貞寿、参与／大熊 孝・原田 隆

2. 会員数 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

(1) 普通会员	() 内は昨年度との差異	
個人会員	11,606 人	(- 263 人)
ファミリー会員	2,631 人	(- 48 人)
ユース会員	48 人	(+ 5 人)
(2) 団体会員	367 口／226 団体	(- 26 口／- 5 団体)
(3) 賛助会員	53 口／41 法人	(+ 1 口／+ 2 法人)
(4) 寄付サポーター	684 人	(- 67 人)
(5) アクションサポーター	11,810 人	(- 9,556 人)
合 計	27,199 人・口	

3. 会議

(1) 理事会		
・ 5 月 24 日 通常理事会／ (議決)	第 1 号議案	2011(平成 23)年度事業報告・財産目録等の承認
	第 2 号議案	評議員会の開催の決定
・ 6 月 18 日 臨時理事会／ (議決)	第 1 号議案	代表理事等役職者の選定について
・ 7 月 23 日 臨時理事会／ (議決)	第 1 号議案	代表理事及び専務理事の選任について
	第 2 号議案	会長・顧問・参与等について
	第 3 号議案	常勤理事について
・ 2 月 25 日 臨時理事会／ (議決)	第 1 号議案	2012(平成 24)年度補正予算について
・ 3 月 22 日 通常理事会／ (議決)	第 1 号議案	2013(平成 25)年度事業計画および収支予算
	第 2 号議案	規程類の改訂について
(2) 評議員会		
・ 6 月 7 日 定時評議員会／ (議決)	第 1 号議案	2011(平成 23)年度事業報告・決算の承認
	第 2 号議案	次期理事および監事の選任
(3) 委員会等		
・ 保護戦術ワーキング会議 (4/13、5/10、7/5、10/4、11/1、12/17)		
・ 沿岸保全管理検討会 (4/23、10/29)		

- ・下総生物多様性アクションプラン推進会議（4/15）
- ・モニタリングサイト 1000 里地調査 検討委員会（5/22、10/25、2/18）
- ・大隅保護林設定に関する検討会（6/11）
- ・東日本海岸「群落 and ふれあい調査」委員会（9/21、3/18）
- ・自然観察指導員養成ワーキンググループ（6/16、1/12）
- ・自然観察路コンクール 審査会（11/9）
- ・自然観察指導員講習会講師会議（2/23）
- ・会報編集ワーキンググループ（4/25、5/30、6/25、7/24、8/28、9/26、10/24、11/21、12/19、1/24、2/25、3/22）

4. 意見書等の公表

(1) 意見書・要望書等（代表者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、12 件の意見・提言を提出した。（17 頁・別表 1）

(2) 声明・パブリックコメント等（主に業務担当責任者名で提出）

各事業で取り組んでいる問題に対し、9 件の声明・パブリックコメント等を提出した。（17 頁・別表 2）

5. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる 30 件の委員会等に役職員を派遣し、施策の転換や事業の見直しの検討に参画した。（18 頁・別表 3）

6. 印刷物の発行

(1) 会報『自然保護』

- ・第 527 号～第 532 号（年 6 回、奇数月発行、32～44 頁、各号約 15,000 部）

(2) 報告書・資料集

- ・報告書 No.99 『日本の海洋保護区のあり方 ～生物多様性保全をすすめるために～』（1,000 部）
- ・資料集 No.50 『自然しらべ 2011 チョウの分布 今・昔 報告書』（1,000 部）

(3) パンフレット等

- ・寄付リーフレット（3 種類、計 56,000 部）、個人会員入会案内パンフレット（65,000 部）
- ・NACS-J 自然観察指導員講習会チラシ「自然を守る仲間になろう」（15,000 部）
- ・NACS-J 自然観察指導員講習会開催一覧チラシ（5,000 部）
- ・冊子「現在の NACS-J 自然観察指導員制度要点」（8,700 部）
- ・1 泊 2 日版 指導員講習会パンフレット「気づく 身につく 自然のみかた」（2,000 部）
- ・春分の日 全国一斉自然かんさつ会チラシ（16,000 部）
- ・第 29 回自然観察路コンクールパンフレット（8,000 部）
- ・東北の海岸植物卓上カレンダー（500 部）
- ・「自然しらべ 2012 貝がらがし！」参加マニュアル（60,000 部）、結果レポート（17,000 部）
- ・東日本海岸調査報告書「震災後の海岸植物、海、そして人」（700 部）

(4) ウェブサイト掲載資料

- ・「泡瀬干潟埋立・海草藻場モニタリング調査レポート 10 年の記録（2003-2012 年）」（全 26 ページ）
- ・The way how Marine Protected Area in Japan should be — to promote biodiversity conservation（報告書 No.99 英語版／全 21 ページ）

Ⅱ. 事業報告書

【日本自然保護協会の使命(長期目標)】

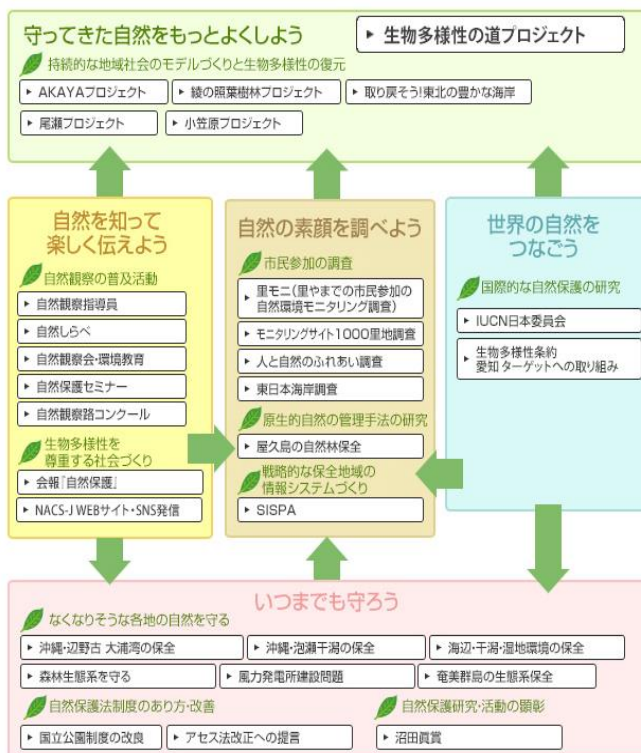
「自然を調査研究してその保護の大切さを明らかにし、野生生物の生息及び生育環境の保護、自然資源の持続、生物多様性の保全等広く自然保護に努めるとともに、これらに関し人々の認識を深め、もって現代及び後代にわたる自然環境の保全に貢献することを目的とする。」(定款 第4条 目的)

日本自然保護協会(NACS-J)の事業は、上記の使命を持ち、保護活動、保全研究事業、教育普及事業を行いながら、守ってきた自然をよりよく後世に引き継ぎ、持続可能な社会づくりのモデルと生物多様性の復元を目指している。

【生物多様性の道プロジェクト(中期事業目標)】

生物多様性条約 COP10及び国連生物多様性の10年を踏まえ、NACS-Jでは、2011年度から「生物多様性の10年事業」をスタートした。

本事業は、「生物多様性の道プロジェクト」と名付け、地域の暮らしに根づいた生物多様性保全を実現することを目指し、次の3つの方針で進めている。



①地域が主体となった地域づくりの一環としての生物多様性保全となるよう、自治体(市町村)への普及啓発を行い、地域住民が主体的に実施できる保全活動の実践、提案を行う。

②生物多様性保全は「環境」分野の取り組みという偏った概念を払拭し、健全で持続可能な農林漁業を支えるものであること、保全型の土地利用や土木は持続可能な地域経済と新たな産業を創出するものであること、を実例と実践で示す。

③全ての事業において①②の主旨を具体的に示した事業の説明を行い、紙媒体やWEBで発信し、パブリックアウェアネスを高める。



【2012年度の生物多様性の道プロジェクト重点活動】

COP10で決議された愛知ターゲットを受け、2012年度は生物多様性国家戦略の改訂が行われることから、5月に国家戦略シンポジウム『海の生物多様性フォーラム～日本の海の今を考える～』を開催し、特に保護地域の拡大や土地利用に関しての提言、市民やNGOからの意見を反映させるための働きかけを行った。

また、地域戦略づくりと保全活動の更なる普及を図るために、各地で活動するNACS-J 会員・自然観察指導員、市民グループ等に呼びかけ、自治体を巻き込んだ地域戦略の学習イベント、「人と自然のふれあい調査」講習会を開催した。そのモデル的活動として、北総地域(関係7市町村)において「生態系サービスのマップ」づくりとNGOのネットワーク化に取り組んだ。

このほか、3月にはシンポジウム「生物多様性を活かした地域づくりの今～身の回りの自然から地域の未来に向けて～」を開催し、NACS-Jの各事業の現場(赤谷・綾・漆・中池見)等で進める生物多様性を軸にした地域づくりの最新の取り組みを発表するとともに、神奈川県地域戦略策定に向けた動きや、すでに「bプラン」という名称で策定した横浜市の事例や、生物多様性上重要な地域を市民の手で発見・指定し、保全に役立てようという神奈川県自然保護協会と千葉県柏市、「人と自然のふれあいマップ」、ユネスコエコパークに登録された宮崎県綾町の取り組み事例などが発表された。

また、全事業での広報活動への取り組みを強化するため、各部の職員から構成される広報チームを設け、日常的な調整及び定期的な広報会議の開催により、各事業をつないで効果的な広報を行い、寄付・会員増を図った。

生物多様性の道プロジェクト

2012年度の目標	2012年度の成果
・国家戦略改定に、市民やNGOの意見を反映させる。 ・2011年度までに作成したツールを活用して、市民が参加する地域づくり・行動計画づくりを支援する。 ・プロジェクトが目指す地域づくりのイメージを共有できる人を増やす。 ・支援者、支援企業を見つける。	・生物多様性国家戦略については、シンポジウムの開催や省庁関係者との意見交換を実施した。 ・自然保護の課題が生じた地域において、道プロで蓄積した人・団体とのつながりが活かされ、政策提言活動やシンポジウムを行うなど効果的な保護活動ができた。

	事業名	2012成果	業務内容
1	国家戦略改定への働きかけ	・生物多様性の道プロジェクトの2020年までの中期目標をまとめた。 ・シンポジウム通じて海の生物多様性保全に関する提言を行い、課題の指摘と戦略への反映を働きかけた。	①道プロ定期運営会議(1回/月)の開催、アドバイザー会議の開催運営 ②生物多様性国家戦略の提言のためのシンポジウムを開催(5月)
2	市民主体の生物多様性保全の地域づくり	・群馬県・赤谷、千葉県・下総において、自然の恵みマップ作りを実施し、人と自然の関わりが見える化の事例を作り上げた。 ・下総においては、専用WEBサイトを構築し、インターネットを通じて入力できる自然の恵み「ふれあいマップ」作りの手法を完成。 ・シンポジウムを通じた地域戦略の現状把握と、NACS-Jの取り組みへの理解向上につながった。	①北総地域における地域戦略づくりと「生態系サービスのマップ」づくりとNGOのネットワーク化(下総) ②地域戦略シンポジウム「生物多様性を活かした地域づくりの今身近な自然から地域の未来に向けて」の開催(3月) ③地域戦略学習会・ふれあい調査講習会の出前開催。 ④福井県・中池見保全推進協議会への参画を行った。 ⑤宮崎・綾・宮城・名取で学習会・座談会を行った。
3	道プロ広報	・NGOや企業人などが訪れる場で、NACS-Jや生物多様性を活かした地域づくりへの取り組みを広報した。 ・WEBサイトの改定により、2011-2013年の情報の体系的な発信が可能となった。	①丸の内さえずり館、環境パートナーシッププラザでの展示をのべ3カ月間実施。 ②生物多様性の道プロジェクト専用WEBサイトの改定



▲国家戦略への提言フォーラム



▲「旧三国街道マップづくり」モニターツアー



▲下総 クツワムシ研究会



▲丸の内さえずり館での展示とセミナー
「生物多様性地域戦略とは何か」



▲道プロ 下総アクションプラン専用サイト
ふれあいマップ

保護プロジェクト事業

2012年度の目標		2012年度の成果	
保護活動を推進し、広く社会の支持と寄付を獲得していく。		沖縄・辺野古サンゴ礁の埋め立て問題に、自然保護問題として多くの発信を行い、地元メディアで支持を得ることができた。国立公園の地熱開発問題、種の保存法改正でも一定の成果は見られたが、より広く一般の方々からも支持を得られる状況には至っていない。情報発信や取り組みを改良していきたい。	
	事業名	2012成果	業務内容
1	保護委員会の設置と運営	・保護問題の個別テーマのいくつかについて相談・整理をすることができたが、中長期目標の検討には至らなかった。	・理事と保護担当職員による保護問題への対応を検討する場を設置し、辺野古埋め立て問題・リニア中央新幹線計画問題などについて検討した。(6回)
2	現場の保護問題	・「地熱」においてNACS-Jは自然保護側のステークホルダーの一人という位置づけを獲得できた。国会議員への意見陳述・メディアに取り上げられた。 ・「種の保存法」改正について、環境省原案よりも大幅に見直し要項が増える見込みとなった。 ・寄付や支援者拡大につながる新たな運動はつくれなかった。	・各地のNACS-J会員、地元NGOからの連絡・要請に応じて各地の保護問題の情報収集および交渉活動を行った。問題に応じて、意見表明、現地視察、政府機関等の施策検討会への参画、取材対応・催事協力などを行った。 ■国立公園など ・国立・国定公園の地熱発電のあり方の検討に対し、影響を指摘し、問題提起した。 ・環境省・地方事務所の地方行政への権限移譲について、国立公園等の保護地域管理などの点から反対し、政府や議会に働きかけた。 ■「種の保存法」(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律) ・22年ぶりの改正に向け、抜本的な見直しを求めて、NGO共同で意見表明、国会議員へのロビーイングを行った。 ■リニア中央新幹線計画問題 ・関係者との意見交換、情報収集をし、南アルプス等山岳地域への影響を検討した。
3	海の保護活動	【沖縄・海】 ・開発計画の進捗に逐次意見表明ができ、メディアにも紹介された。事業者に関心かける際、東京・沖縄の市民団体との連携体制ができ、行政とも協力関係をつくった。 ・辺野古サンゴ礁保全の科学的根拠となる、海草藻場の10年間のデータを得ることができた。 ・嘉陽の護岸問題で、自然への負荷が少ない護岸の事例づくりが見込まれる状況をつくることができた。	■辺野古サンゴ礁・埋め立て問題 ・環境影響評価書類を研究者の協力を得て分析し、問題点を指摘した。 ・国会議員などを巻き込みつつ、事業者との交渉を行った。 ・市民の協力でジャングサウオッチを行い、10年間のまとめに着手した。テレビシンのアオサンゴ群集調査を実施した。 ■嘉陽海岸護岸問題 ・多くのステークホルダーと協力関係をつくり、事業者と意見交換を重ね、意見書を提出して計画の改良を働きかけた。工事による影響把握と、砂浜の状況や変化を地域住民自らが知ることができる調査手法として、砂浜市民調査を立ち上げた。 ■泡瀬干潟 ・10年間のモニタリング調査の結果を報告書にまとめ、環境影響評価の予測と異なる現状を指摘した。サンゴ群集について、埋め立て工事による影響を数値で捉えることができた。 ■その他 東京・沖縄で、議員やNGOとともに行政と交渉を行った。
4		【日本の沿岸】 ・海洋保護区の問題点を提言書にまとめ、公表した(和、英)。 ・国内外の会議やシンポで、海洋保護区の問題を提起、生物多様性国家戦略や海洋基本計画の見直しを提言した。	■日本の沿岸域の問題提起(Give2Asia助成事業) ・沿岸保全管理検討会を開催した(2回)。 ・昨年度から検討を続けてきた海洋保護区の見直しへの提言をまとめ、和文・英文で公表(2012年5月・9月)。海洋基本計画の見直しを求める際に用いた。
5	保護地域の保全	【小笠原】 ・世界遺産登録前後で、現在のところは利用による大きな影響は出ていないことを検証できた。 ・過年度まとめの過程で、関係者が集う場づくりのきっかけをつくれた。	■南島自然環境モニタリング調査(東京都委託) ・南島のモニタリング調査を実施し、世界遺産登録前後の利用による自然環境への影響、外来生物による影響を検証した。過年度の調査について、とりまとめ報告書、島民向けのパンフレットなどを作成した。 ・検討会を開催し、今後10年間のモニタリング調査設計を検討した。南島利用のルールとその成果について島内関係者と意見交換を行った。
6		・森林生態系保護地域のツーリスト動線コントロールについて、ビジョンが共有され林野庁による基礎調査が開始された。	■小笠原・自主 ・諸島全体のエコツーリズムの成立を目指して、 ①森林生態系保護地域の外来種の再移入防止策の整理、対策設計を提案した。 ②東平サンクチュアリー以外への観光客分散のための新たなエコツアーの実践候補地を提案した。
7		【尾瀬】 ・至仏山登山道について、問題箇所3ヶ所の迂回の基本方針が基本合意された。	・専門家や尾瀬保護財団・関係自治体と、迂回ルート候補について、科学的な合意を目指して調整を行った。 ・受託事業は実施されなかったため、委員の代理出席で調査等に参加、提言した。
8	赤谷プロジェクト	・赤谷の森の100年後に向けて中長期的な目標・行動計画をとりまとめた。 例: 100年生未満の約2000haは、人為を加えず50年後に約8割が100年以上の発達した森になり、多様な森林タイプが配置される、など。	■「三国山地／赤谷川生物多様性復元計画推進事業」(林野庁関東森林管理局受託事業) ・科学的根拠に基づいた地域環境管理を実行するため、「自然環境モニタリング会議」を設置・検討を行い、植生管理、猛禽類モニタリング、ほ乳類モニタリング、溪流環境復元の各WGでの検討に基づいた調査を実施した。 ・これまでの調査成果に基づき、赤谷の森の中長期的な将来像を検討し、各WGの、次期地域管理経営計画の策定までの目標・行動計画をまとめた。 ・みなかみ町民向けの現地説明を開催(3回)し、プロジェクトの成果を地域に発信した。

	事業名	2012成果	業務内容
9	赤谷プロジェクト	・第1期(2003年～2011年3月)の活動のまとめができた。 ・みなかみ町がプロジェクトを地域づくりに活用するために積極的な検討を始めた。 ・企業からの支援拡大に取り組み、幅広い市民の参加の機会を設定した。	■自主事業 ・総合事務局として企画運営会議・調整会議を運営し、プロジェクト関係者の協力を得て、共同執筆による『赤谷プロジェクトの歩みー第1期ー』を作成した。 ・生態系サービスを活用した地域づくりのひとつとして、観光用「旧三国街道マップ」を作成し、地域住民を含めた現地学習会を実施した(生物多様性の道プロジェクト)。 ・企業の支援を活用して、国有林の管理への市民の参加の機会を設けた(市民参加型モニタリング調査、企業社員のボランティア活動機会等)。毎月の定期活動「赤谷の日」について、改良を検討した。
10	保護寄付キャンペーン	・寄付の呼びかけを実施したが、前年に比べて「拡大」には至らなかった。	・寄付ちらしを作成し、配布した。 ・海の保護活動と連動した展示、寄付ちらしを作成した。



▲2012年10月、辺野古ジャングサウオッチ



▲2013年2月、沖縄防衛局に地元団体と意見書を提出



▲2013年3月、沖縄での砂浜調査でテレビ局の取材対応



▲2012年8月、東京・GEOCで海をテーマに展示とイベント



▲2013年1月、赤谷プロジェクト活動成果報告会



▲2012年11月、赤谷プロジェクト自然林復元試験地で企業が活動



▲2013年2月、種の保存法に関して自民党環境部会で意見発表



▲2012年11月、受託事業・小笠原南島モニタリング調査

保全研究事業

2012年度の目標	2012年度の成果
個々の事業で積み重ねてきた市民参加型調査手法のノウハウやデータ、ネットワーク、情報活用基盤であるSISPA、総合事業（綾プロ）、COP10で得られた情報などを有機的につなぎ、地域ごとの状況に合わせて戦略行動計画に着手、実行し、政策に反映する。	・モニ1000の調査活動のある中池見湿地や流山市において、保全行動計画策定のための協議会準備のための調整や、地域戦略の推進体制の整備と重要地域の選定を行った。 ・綾ではエコパーク登録を実現するとともに、国際情報収集やSISPAの成果を有機的に活用しながら生物多様性地域戦略づくりに向けた動きを加速させた。

	事業名	2012成果	業務内容
1	里やま保全研究 (モニタリングサイト 1000里地調査)	・約1,300名が引き続き調査に参加し、新たに49の調査地を選定した。 ・「指標レポート」を発行し、国の愛知目標達成評価指標となるよう環境省・JBON関係者との協力関係を強化した。 ・GBIFへのデータ登録の準備をすすめ、地方自治体（流山市・枚方市等）の施策に調査活動を組み込むことができた。 ・モニ1000シンポを開催し、全国から150名が参加。広く成果を発信した。	・全国調査を継続し、一般サイトの再配置や調査手法の見直し。 ・「指標レポート」の発行やGBIFへのデータ提供を開始。 ・シンポジウムや各サイトとの合同発表会等で成果を広く公表。
2	自然保護 データベース運営 (SISPA)	・里やまモニタリング事業のポータルサイト「里モニ」の改良を行い、新たな運用を開始した。 ・自然しらべで「生きもの情報館」を活用した。 ・日本の保護地域の概要をまとめた保護地域アトラスの作成を行った。	基盤整備 ・里やまモニタリング事業のポータルサイト「里モニ」の改良。 ・里モニサイト(モニ1000里地調査ボランティアサイト)の体制づくり。 ・生きもの情報館の広報と活用(自然しらべ・綾・大隅等)。 保護地域への提言 ・国家戦略策定や地域戦略策定のための提言。 ・WCPA日本委員会への参加及び保護地域に関する提言。
3	東日本海岸調査	・東日本大震災被災地での海岸植物群落の調査を141地点で市民調査により行った。 ・ふれあい調査により人と海との関わりについて明らかにした。 ・植物群落RDB記載群落の調査を行い、津波の影響を評価した。 ・これらの結果についての報告会を実施、結果を踏まえ意見書の提出を行った。	・東日本の被災地の海岸植物群落の調査。 ・被災地の10カ所で調査のための講習会とふれあい調査。 ・海岸沿いの植物群落RDBの調査。
4	照葉樹林 保全研究	綾プロ ・ユネスコエコパークに登録された。 ・生物多様性地域戦略策定のための生物相基礎調査を実施した。 ・生物多様性の理解を深めるための市民向け講習会を実施した。 ・ふれあい調査を新たに杣道地区で開始した。 大隅調査 ・保護林設定のための検討会を開催した。 ・川上地区でのふれあい調査を進めた。	綾の照葉樹林プロジェクト ・ユネスコエコパーク保全管理計画の策定及び生物多様性地域戦略の策定準備。 ・ふれあい調査を町内他地域に普及。 ・ユネスコエコパークセミナー＋ツアーの開催。 大隅調査 ・保護林設定に伴う協議会の設定。 ・照葉樹林調査の結果を反映した金弦の森保全利用マップの作成。 ・川上地区ふれあい調査の実施。
5	屋久島原生調査	・約1haのスギ林の29年目のモニタリング調査を実施した。	屋久島のスギ林に設定された1haプロットの10年ごとの再調査
6	愛知目標 基盤整備 ①IUCN 事務局運営	・にじゅうまるプロジェクトへの登録数は、2012年4月1日段階の32団体50事業から2013年4月段階84団体132事業と、およそ2.5倍に増加した。 ・登録数は、第4次環境基本計画、生物多様性国家戦略2012-2020に位置づけられた。 ・国連生物多様性の10年日本委員会との接点が増え、生物多様性主流化支援基金の受け入れや、UNDB-J連携事業の認定の仕組みが構築された。	・にじゅうまるプロジェクトへの登録事業の拡大(NGOから300事業、企業と自治体から合わせて50事業の登録)と、先駆的事例の収集発信(エコプロ展示や海外発信)。 ・にじゅうまるプロジェクトを国家戦略における取り組み指標に位置づけ。 ・にじゅうまる事業を通して企業とNACS-J事業とを結びつけ企業寄付を使って事業を進めることができる事例を構築。
	愛知目標 基盤整備 ②国際情報 収集業務	・提案により事業が発注され、応じた。 ・IUCN世界自然保護会議、COP11での情報収集を行うとともに、COP11でのサイドイベントの企画運営を実施した。	・環境省と協議し、情報収集業務を提案。 ・国際会議(IUCN世界自然保護会議、生物多様性条約COP11)に加え、優良事例の国(イギリスなど)の事例調査と日本の保全活動への活用方法などを検討。
7	専門委員会	実施しなかった。	保全研究委員会の設置。
8	研究共通	・生物多様性、里やまの市民調査、ユネスコエコパークなどのテーマで講演会を行った。 ・中池見、亀成川などの保護問題対応を行った。	・外部からの依頼ごとに対応。 ・想定していない重要な事業の情報収集。 ・芽だし活動。 ・緊急の現地視察、調査要請への対応。



▲モニ1000シンポジウムの様子



▲生物多様性指標レポート2012



▲東北海道植物群落調査風景



▲東北海道植物群落調査風景



▲綾ユネスコエコパーク登録記念式典



▲綾の照葉樹林プロジェクトの間伐作業



▲屋久島原生自然環境保全地域調査



▲COP11@インドでのサイドイベント

教育普及事業

2012年度の目標	2012年度の成果
・たくさんの若い人にNACS-Jの活動に関わってもらう。 ・指導員を主とした自然保護活動をしている人のステップアップの機会を提供する。	・講習会を開催しやすく、受講しやすくする形態が整えられた。 ・企業との連携を進展させた。 ・自然しらべの参加実感を向上させた。

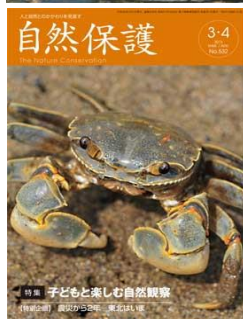
	事業名	2012成果	業務内容
1	指導員講習会	・市民団体・自治体・企業との共催により、全12回の講習会を開催し、561名の指導員を養成した(別表5・初回以降総登録者数26,592名)。講習会受講率を維持(85%)し、新規入会者の獲得に貢献した。 ・自然観察会の目的とその手法の理解を深め、地域の自然保護活動を推進した。また、1泊2日短縮プログラムの講習会を3回実施し、これまで参加しにくかった受講者層(若い世代や教員など)を獲得することができた。 ・講師との連絡や会議等を通して情報の共有・交換することで、次年度以降の1泊2日短縮プログラムの本格実施に備えた。	・全12回(うち1泊2日プログラム3回)開催・講師会議を1回開催 ・各県指導員連絡会や関係団体への受講者獲得の協力依頼 ・自治体や企業など 新規共催先獲得のための広報
2	指導員強化(活動支援)	・講習会説明会・指導員交流会を1回開催(兵庫)し、指導員間のネットワークの重要性や講習会広報の課題について意見交換を行った。 ・講習会案内パンフレットを、1泊2日短縮プログラムへの移行に合わせ、若い世代を意識したデザインにリニューアルした。 ・指導員向けメールマガジン「しどういん徒然草」を月1、2回配信し、指導員の活動に役立つ情報の提供に努めた。また指導員連絡会からの相談や依頼に、資料及び情報を提供し活動を支援した。 ・春に出会おう「春分の日 全国一斉かんさつ会」(期間・3/16-31)を全国の指導員に呼びかけ、66団体が連携して地域の観察会を開催した。募金寄付の協力を募り、職員が自ら観察会に参加したレポートを発信するなど指導員の活動の盛り上げに努力した。	・指導員連絡会の活動支援と情報提供・交換 ・講習会説明会と指導員相談会の実施 ・講習会アンケートの改良と新指導員の要望・活動把握と対応の検討 ・パンフレット作成や配布、一般紙への掲載などの指導員制度の広報 ・新指導員への連絡会入会案内強化やメールでの情報発信 ・再継続を呼びかけるダイレクトメールの実施 ・登録証明書・ネームプレート・腕章・保険の対応 ・メールマガジン配信 ・全国一斉観察会の実施
3	指導員研修会	・愛知県と「水辺の生きものから里やまを学ぶ」(10/7-8)を共催し、水生生物を通じた水辺環境の見方を研修する場を提供した。 ・大分県自然観察連絡協議会と「ネイチャー・フィーリング研修会」(12/8-9)を共催し、さまざまな参加者とのコミュニケーションの取り方について学ぶ場を提供した。新宿御苑みどりフェスタにて「ネイチャー・フィーリング自然観察会」(4/29)を開催し、総勢130名の参加があり、広く普及啓発の機会となった。 ・近年講習会を開催していない和歌山県からの受託で、研修会「私にもできる体験型自然観察会の第一歩」(和歌山県公園指導員対象・10/8)を開催し、参加者の自然の見方をひろげることができた。	・指導員研修会の企画・共催による実施計3回 ・自主研修会と地域の自然を理解する研修会、自然保護セミナーは人員不足や助成金が獲得できなかったために未実施 ・4/29新宿御苑みどりフェスタにてネイチャー・フィーリング自然観察会の開催し、指導員の研修の場として下見等を充実
4	教育普及委員会・ワーキンググループ	指導員養成ワーキンググループの開催を通じて、講習会の1泊2日短縮プログラム実施後に課題抽出とその対応策の検討を行い、プログラムを確立させた。また、地域の自然を理解するための研修会案や指導員全国大会の開催、講習会テキストの改訂などについても検討を行った。	・指導員養成ワーキンググループ2回実施 ・教育普及委員会は検討の必要性の点から未設置
5	自然しらべ2012	・海辺の自然環境を知る手がかりとして貝がらをテーマに延べ1,833名が参加し、385カ所から3,700件の調査データが寄せられ、温暖化の影響や外来種の分布変化の概況を知ることができた。 ・参加者が増えるよう、砂浜観察会と貝がら教室を鎌倉市(7/7)、千葉市(7/8)、津市(9/23)、地球環境パートナーシッププラザ(8/11)で、成果報告会を丸の内さえずり館(2/8)で実施し、広く一般の方の参加の機会を設け、活動をアピールした。	・市民参加型の環境教育プログラム「自然しらべ2012 貝がらさがし！」実施
6	自然保護教育(企業・団体対象)	・賛助会員や、事業への協賛・寄付企画などで支援をしてくださる企業(6社)と社員や親子向けの観察会やネイチャーツアーを企画・実施し、企業が生物多様性保全に対し配慮活動を行う際の、環境教育や自然観察会の重要性を広く普及した。 ・自社ビルの公開緑地におけるモニタリングと生物多様性保全のための管理について、アドバイスと企画を提案した。	・企業への自然観察会企画の提案、実施。 ・観察会開催依頼などに対応。

広報・編集事業

2012年度の目標	2012年度の成果
・NACS-Jの各事業の見せ方・広報の仕方を工夫する。 ・メディアを使い分けて情報発信力を高める。 ・NACS-Jの活動を知る人の層を広げる。	・生物多様性情報の即応的発信、コンテンツの幅広いジャンルからの発信ができ、外部からの評価も高まった。 ・収入源としては低調だったが、NACS-Jの認知度や生物多様性保全活動の認知度の向上に貢献した。

	事業名	2012成果	業務内容
1	情報発信事業	・会報『自然保護』6号を各約15,000部、遅滞なく編集・発行。製作費・発送費を削減しながら、オールカラー化を果たし、読者満足度を高めた。特集では、バイオミミクリを扱ったNo.529は人気を得た。 【特集】 ・キツネに出会える里やまのカタチ (第 527 号、2012 年 5・6 月号) ・みんなでつくる海洋保護区 (第 528 号、2012 年 7・8 月号) ・自然界のデザインはアイデアの宝庫！ (第 529 号、2012 年 9・10 月号) ・若ものつなぐ活動の輪 (第 530 号、2012 年 11・12 月号) ・世界基準で守る地域の自然 (第 531 号、2013 年 1・2 月号) ・子どもと楽しむ自然観察 (第 532 号、2013 年 3・4 月号) ・NACS-JWEBサイトは昨年比でユーザー数が29%増の27万6662人、ページビューが11%増の741,275となった。twitterフォロワーが約2400人、Facebookいいね！が約1000人となった。 ・NACS-JのWEBサイトでの生物多様性情報の発信力が評価されNTTレゾナントの「環境goo大賞」の生物多様性賞・審査員特別賞を受賞。 ・生物多様性情報の発信、構築力を買われ国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) のウェブサイトリニューアルを担当することとなった。	■記事制作(会報・WEB用) ・特集、グラビア(会報・WEB共通)の作成。 ・会員専用記事(主に会報／会報WG)の作成。 ・WEB専用記事の作成。 ■既存資料の活用(主にWEBに) ・資料集、フィールドガイド、会報などの既存資料から今も価値のあるものを発掘しリメイク活用する手法を研究。 ■会報発行(印刷・発送) ・会員向け情報誌のオールカラー化。 ・年6回(隔月)発行、44頁×2号 36頁×4号 ・制作・発送費のコスト削減。 ■WEB(サーバー管理、HTML外注、システム改善) ・オフィシャルサイト…組織情報のディスクロージャー、活動報告、参加・寄付の呼びかけ。 ・BD10.jp…NACS-Jや会員・関連団体等の情報を提供。 ・twitter、Facebook、メルマガ…サイト情報の発信・オフィシャルサイトへの誘導。 ・あたらしいメディア(スマホなど)に対応したWEBメディアの企画・構築。 ■サーバーの移転 ・WEBの使用方法の変化に伴う移転、コスト削減。 ■Facebook有料広告、新聞有料広告の出稿。 ■WEB課金システム+WEBマガジンの導入検討、設計。 ■国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) のWEBサイトリニューアル設計 ・NACS-JやIUCN-Jウェブサイトほか、NACS-Jに集まる生物多様性関連情報の提供と普及を目指し、戦略的な情報展開を構築。
2	協力者拡大事業	・組織体制の改変により、広報業務の協力者拡大事業が各部に振り分けとなった。	

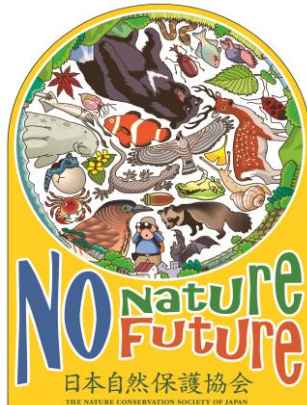
	広報会議	・広報手法の検討、改良、アイテム制作を試行したが、収入拡大としての大きな成果はなかった。 ・企業協賛により、ECOM駿河台でのNACS-Jの活動紹介展が開催できた。 ・各部職員の広報チャレンジ・外部研修等への積極的参加ができた。	・各部の職員から構成される広報チームの運営、外部スタッフの招へい。毎月1回、広報会議を開催。 ・各事業での広報活動の機会を共有・調整し、効果的な実施方法を検討。企業向け特別支援協賛プログラムや寄付返礼アイテムの東北海岸植物卓上カレンダー、生きものパズルだ！ステッカー制作、ファンディングサイトCampfireへの登録、入会パンフレットの刷新、環境教育活動への寄付パンフレット、書店への入会資料の封入を試行。
--	------	---	---



第12回 環境goo大賞 授賞式



▲NACS-JWEBサイトが環境goo
大賞で「生物多様性賞」と「審査
員特別賞」を受賞



あなたも
自然を守る
力になろう

一人ひとりの小さな行動を、
全国的な自然保護活動に
つなげていきます。
会員として自然を大切に思う
あなたの力を貸してください。

日本自然保護協会

子どもたちの
遊び場に
豊かな自然を！

子どもたちが遊びの中でたくさんの感動と出会いには、身近な自然と、自然をよく知る大人たちが必要です。日本自然保護協会は全国で身近な自然を守り伝える環境教育に取り組んでいます。

あなたのご寄付が、身近な自然を守る活動を支えます。

日本自然保護協会

▲入会パンフレットと寄付パンフレット



▲寄付返礼アイテム:生きものパズルだ!ステッカー
と東北の海岸植物卓上カレンダー



生物多様性保全の一步を

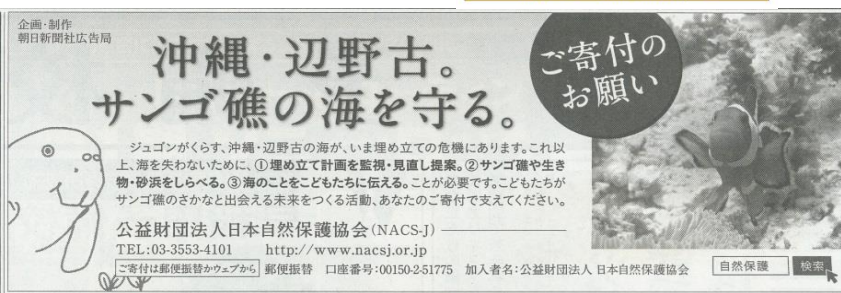
企業向け 生き物の恵み SPECIAL サポーター
募集のご案内



日本自然保護協会（NACS-J）の生物多様性保全事業へのご支援をいただく「生き物の恵み SPECIAL サポーター」になっていただいた企業様の中には、ご希望に応じたさまざまなプログラムを提供します。さらに、日本自然保護協会のウェブサイトを Facebook を活用し、生き物の恵み SPECIAL サポーター企業の生物多様性保全活動の普及、生物多様性保全に貢献する消費活動の促進にも取り組んでいきたいと思っております。



▲生き物の恵みSPECIALサポーターのご案内



▲朝日新聞東京版夕刊の寄付広告



▲ECOM駿河台でのNACS-J活動紹介展示

事務局運営事業

2012年度の目標	2012年度の成果
・事務体制を整え、円滑に事務局運営を行う。 ・会員・寄付金の維持拡大に努める。	・事務局運営については円滑に進めることができた。 ・会員獲得のため、いくつか新たなアプローチを試みた。

	事業名	2012成果	事業内容
1	事務局運営	・理事・監事・参与の選任、代表理事交代への対応。 ・労働契約法改正への対応。	・事務局運営における課題の検討・規程等の諸整備。
2	収入基盤整備	【個人会員】 目標390名に対し、224名が入会（指導員講習会受講時の入会者464名を除く）。 【賛助会員】目標5口に対し、4口・4件入会。	会員 ・入会DM発送（資料請求者、保護地域等に関係する市町村・宿、企業CSR部局等） ・団体会員へのメリット付与（会員証の発行、Web・会報等での紹介）の検討・実行 ・パンフレット設置先への定期発送 ・期限切れ会員への再入会勧誘DM送付 ・個人会員証・会費領収書の作成 ・書店レジ袋へ入会パンフ封入配布（12月、丸善）
		・チラシ配布（2回）による反応： 58件 1,025,505円 ・寄付企画は随時対応。TV番組企画からの大口寄付等により目標達成。	寄付 ・非会員寄付者への寄付依頼チラシ送付（7月、12月）。 ・寄付企画への対応。
		・特定寄付信託の新規提携を2行と交渉。 ・遺贈や特定寄付信託を提携する信託銀行に広報協力を依頼した。	その他収入 ・信託銀行へ寄付対象先の働きかけ。 ・遺贈、特定寄付信託のPR推進。
3	システム基盤整備	・テーマごとのリーフレット作成、WEBサイトのクリック募金システム導入、企業による寄付企画の増加や寄付税制の改正に対応するため、会員管理システムの寄付管理機能を改訂。 ・ゆうちょ銀行の口座引落システム変更に対応するための会員システム改訂は、経費が予算を大きく上回ったため見送り。	寄付データの蓄積システムの改良、ゆうちょ銀行口座引落システムの変更等への対応。
4	刊行物管理	・直販・印税は目標額を上回ったが、通販は目標100万円に対し25万円の売上であった。	・販売書籍の仕入れ・在庫管理、通販委託管理（狼森、トーコロ）。 ・フィールドガイドシリーズの増刷への対応 ・新刊：報告書1、資料集1
5	日本自然保護協会 沼田眞賞（牧田基金事業）	・4個人1団体を選出。 ・2/3授賞式・記念講演会 参加者約70名。 ・顕彰の目的は達成。NACS-Jと賞の認知度向上が課題。	・第12回沼田眞賞の選考および授賞式・記念講演会の開催。

保護交渉事業

2012年度の目標	2012年度の成果
・保護の具体化・前進の確実な獲得	下記成果の通り保護を進めることができた。

	事業名	2012成果	事業内容
1	保護交渉	・林野庁の宮城海岸防災林計画に対し、検討会と協議会の設置を提言し実現。・環境省の風力・地熱発電計画アセスに対し、大型猛禽類生息地の除外を提言し実現。 ・大雪山、日高山脈に森林生物遺伝資源保存林の設定を提言し、設定された。 ・奄美大島、徳之島に森林生態系保護地域の設定を提言し、設定された。 ・木曽ヒノキ林の保護林化を提案。 ・尾瀬国立公園、赤谷プロジェクトそれぞれの計画会議に参画し、国有林と国立公園管理の連携強化を進言した。	①国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み。（土地利用施策の改良誘導） ②保護地域化困難地への保護地域化（新設、拡大）。 ③国立公園・自然環境保全地域・保護林の一元管理方策の進展。 ④国有林への多様化保全型施策の組み込み（モデルプロジェクトの普遍化）。

ご入会・ご継続をありがとうございました
あなたの会費は、日本の自然を守るために使わせていただきます

NACS-Jの活動に賛同し、支援して下さる「自然を守る仲間」、それが会員です。

- 日本自然保護協会（NACS-J/ナックス・ジェイ）は、あなたからの会費に支えられ、日本の自然を守ります。あなたが会員でいて下さることが、一つの自然保護活動です。
- 会員としての義務はありません。あなたのできることから、自然保護の輪を広げて下さい。会報やホームページ等でNACS-Jからお伝えする。さまざまな自然保護の情報が役に立つでしょう。
- 会費や寄付金の使い道とその成果は、毎年7月に会報とホームページでご報告しています。

自然を愛するあなたをサポートします。

- 会報「自然保護」を毎月お届けします。他では読めない、調査研究の最新情報や自然保護問題の現状、自然保護の考え方の整理など、多彩な情報を得ることができます。また、各地の自然観察会やイベント、NACS-Jが企画する市民調査などの参加プログラムも、ご紹介しています。
- NACS-Jは「公益財団法人」なので、会費や寄付金は、確定申告時に税控除の対象となります。
- NACS-J主催の催し物の参加費や、NACS-J発行の書籍等の代金が会員価格となります。（書店での購入は除く）
- 会員専用ウェブサイトや、事務局内の「自然保護ライブラリー」を閲覧することができます。
- 自然保護に関するあなたのウェブサイトを、NACS-Jのウェブサイトのリンク集に掲載できます。詳細は、NACS-Jウェブサイトをご覧ください。

〒104-0033 東京都中央区新富1-16-10 3F 302号室
公益財団法人 日本自然保護協会
Tel 03-3553-4101 Fax 03-3553-0129
nature@nacsj.or.jp http://www.nacsj.or.jp

あなたの会員証です
どうぞ切り取ってお手元においてください。

※ウェブサイトでダウンロードして印刷されたものは有効ではありませんので、必ず郵送で必ずご送付ください。

会費の領収書をお届けします(裏面)
NACS-Jは公益財団法人のため、会費と寄付金が年間計2,000円を超えた分は、税控除の対象となります。確定申告の際にどうぞご利用ください。

- ※ 寄付金の領収書については、入金を確認した時点で別途お送りしております。
- ※ 1,000円未満の寄付金には通常領収書をお送りしていませんが、必要な場合は管理部までご連絡ください。
- ※ 自然観察指導員登録料は寄付金ではなく、控除の対象とならないため、領収書は発行していません。
- ※ 領収書の再発行はできませんので、確定申告時まで大切に保管してください。

▲2012年度 会員証

インターネットからの募金企画

「Yahoo! JAPAN」ポランディア 募金ページへ
「Yahoo! JAPAN」ポランディア 募金ページへ
「Yahoo! JAPAN」ポランディア 募金ページへ

日本自然保護協会(NACS-J)は自然を守るために、様々な自然保護活動を実施しています。その活動の成果や現状を、自然保護の輪を広げて下さる。自然保護の輪を広げて下さる。自然保護の輪を広げて下さる。

現在の募金総額 171,337 円 募金人数 436 人
「ポランディア」ポランディアによる募金の集計を掲載しています。

インターネットからの募金には、Yahoo! JAPANが必須です。
Yahoo! JAPANのお金をいただくには、登録ページに必要事項を入力して取得(無料)して頂く必要があります。

「Yahoo! JAPAN」ポランディアによる募金ページへ
「Yahoo! JAPAN」ポランディアによる募金ページへ
「Yahoo! JAPAN」ポランディアによる募金ページへ

▲インターネットからの募金企画



▲女性用ジャケット販売による寄付企画

第12回
日本自然保護協会 沼田眞賞
授賞式・記念講演会

THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

日時：2013年2月3日(日)13:00~17:00
場所：清瀬市 大正記念館(東京都江東区)
主催：公益財団法人 日本自然保護協会(NACS-J)

沼田眞賞は、日本自然保護協会が主催する、自然保護の分野で顕著な功績を挙げた個人に贈られる賞です。第12回の授賞式・記念講演会は、2013年2月3日(日)13:00~17:00に、東京都江東区の大正記念館で開催されました。

▲第12回沼田賞授賞式チラシ



▲第12回沼田眞賞 受賞された方々と記念撮影



▲木曽・王滝奥の1960年以降に伐採された不成績造林地



▲福島・滝根風力発電所を視察

別表 1. 意見書・要望書等の提出（協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書」の補正にあたり助言を受ける「有識者研究会」のあり方に対する要望書(2012/4/20、防衛大臣、沖縄・生物多様性市民ネットワークほか9団体共同)
- ・「有識者研究会」の現地視察では沖縄県民の意見を聴く機会を設けるようにお願いします(2012/6/7、防衛大臣、沖縄・生物多様性市民ネットワークなど11団体共同)
- ・木曽地方の国有林におけるヒノキ・サワラを主体とする温帯針葉樹林の保護林化による広域保全と復元に向けての意見書(2012/7/3、林野庁長官・林野庁国有林野部長・林野庁中部森林管理局長)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価に関する有識者研究会」への要請書(2012/9/20、防衛大臣、沖縄ジュゴン環境アセスメント監視団など4団体共同)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価に関する有識者研究会 中間的整理 ～評価書の補正に係る基本的方針について～」に関するNGO意見(2012/10/2、沖縄・生物多様性市民ネットワークほか9団体共同)
- ・吉野川河口域を横断する「阿波しらさぎ大橋」の供用後のモニタリングを求める意見書(2012/10/25、徳島県知事)
- ・ラムサール条約登録湿地「中池見湿地」を通過する北陸新幹線建設計画に対する要望書(2012/11/19、環境大臣・国土交通大臣)
- ・「嘉陽海岸住民参加型エコ・コースト事業」に対する意見書(2012/12/10、沖縄県知事・沖縄県北部土木事務所長)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価に関する有識者研究会 最終報告～評価書の補正に係る提言～」に対する意見(2012/12/25、防衛大臣・沖縄防衛局長・普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価に関する有識者研究会委員、沖縄・生物多様性市民ネットワークほか11団体共同)
- ・海岸堤防・防潮堤復旧事業と海岸防災林復旧事業に関する意見書(2013/2/4、内閣総理大臣・環境大臣・国土交通大臣・農林水産大臣・復興大臣)
- ・「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書(補正後)」への意見(2013/2/12、防衛大臣・沖縄防衛局長・環境大臣・沖縄県知事)
- ・公有水面埋め立て申請書類のウェブサイトでの公開に関する要望(2013/3/29、沖縄県海岸防災課、沖縄・生物多様性市民ネットワークと共同)

別表 2. 声明・パブリックコメント等の提出（主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

- ・4月27日に防衛省で第1回会合が行われた辺野古アセス評価書の有識者研究会についてのコメント(2012/4/27)
- ・出先機関の原則廃止に係る「作用法に規定がある事務・権限等の移譲の検討」等に関する意見(2012/5/24、内閣府地域主権戦略室)
- ・原子力発電所の運転再開に反対する緊急声明(2012/7/9)
- ・オスプレイが「日本の重要な保護地域」と「イヌワシ・クマタカ、ライチョウ」の生息域を通過することの懸念(2012/7/28)
- ・「エネルギー・環境に関する選択肢」に対するパブリックコメント(2012/8/3、内閣府官房国家戦略室)
- ・生物多様性国家戦略の改訂(案)に対する意見(2012/8/5、環境省自然環境局)
- ・海洋基本計画に対する意見(2013/2/25、内閣官房総合海洋政策本部)
- ・沖縄県総合沿岸域管理計画(案)に対する意見(2013/3/13、沖縄県環境生活部)
- ・普天間飛行場移設事業「公有

水面埋立承認願書」への緊急声明（2013/3/22）

別表 3. 委員の派遣（カッコ内は要請主体）

- ・風力発電施設における供用後の鳥類等への環境影響実態把握調査検討会（環境省総合環境政策局）
- ・風力発電等アセス先行実施モデル事業検討会（環境省総合環境政策局）
- ・風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業検討会（環境省総合環境政策局）
- ・狩猟と環境を考える円卓会議（環境省鳥獣保護対策室、大日本猟友会）
- ・「地球環境パートナーシッププラザ（EPO・GEOC）」運営委員会（環境省市民活動推進室、継続）
- ・尾瀬国立公園快適利用の促進（利用分散等）に関する小委員会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・アカガシラカラスバト保護増殖検討会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・尾瀬国立公園協議会（環境省関東地方環境事務所、継続）
- ・林政審議会（林野庁、継続）
- ・林政審議会施策部会 地球環境小委員会（林野庁）
- ・大雪山および日高山脈森林生物遺伝資源保存林設定委員会（林野庁北海道森林管理局）
- ・宮城海岸防災林復旧事業等に係る協議会（林野庁東北森林管理局）
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・小笠原森林生態系保護地域保全管理委員会アドバイザー会議（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・保護林モニタリング調査等調査検討委員会（林野庁関東森林管理局）
- ・「富士山・丹沢緑の回廊」モニタリング検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・奄美群島森林生態系保護地域設定委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・小笠原公共事業アドバイザー会議（東京都、継続）
- ・東京都シカ保護管理計画検討委員会（東京都、継続）
- ・東京都獣害対策委員会（東京都）
- ・長野県希少野生動植物保護対策委員会（長野県、継続）
- ・只見町ユネスコエコパーク検討委員会（只見町）
- ・国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）運営部会・幹事会（UNDB-J）
- ・環境思想・環境教育分科会「3.11 以後の環境教育検討小委員会」（日本学術会議 環境学委員会）
- ・日本 MAB 計画委員会（日本 MAB 計画委員会）
- ・尾瀬国立公園至仏山環境調査専門委員会（財団法人 尾瀬保護財団）
- ・生物多様性に影響を及ぼす奨励措置に関する研究提言委員会（特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会）
- ・日本温泉協会地熱対策会議（一般社団法人 日本温泉協会）
- ・緑の循環認証会議 評議委員会（一般社団法人 緑の循環認証会議（SGEC））
- ・綾ユネスコエコパーク専門委員会（てるはの森の会）

別表 4. 催事等への後援・協力・職員派遣等（カッコ内は主催者・開催日）

- ・ラジオ番組「モーニングタッキー／タッキー地球レポート」出演（タッキー816 みのおエフエム・4/5、5/3、6/7、7/5、8/2、9/6）
- ・中央環境審議会自然環境・野生生物合同部会 第2回生物多様性国家戦略小委員会 「生物多様性国家戦略について」ヒアリングスピーカー（中央環境審議会・4/12）
- ・なごや自然教室 後援（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部・4/22、6/24、8/26、10/28）

- ・春の湿地保護全国キャンペーン「湿地のグリーンウェイブ 2012」後援（ラムサール・ネットワーク日本・4/14～5/22）
- ・毎日新聞コラム「生き物の恵み」執筆（毎日新聞・2012年5月～2013年3月）
- ・第二次泡瀬訴訟（泡瀬干潟埋立事業公金支出差止め訴訟）でのアセスおよび環境問題についての意見提出及び証言（泡瀬干潟を守る連絡会および弁護団）
- ・第86回国展 後援（国画会・5/2～14）
- ・「国連子供環境ポスター原画コンテスト」協力（㈱ニコン・5/5）
- ・ふるさと親子自然観察会 後援（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部・5/6）
- ・林野庁署長研修 講師（森林技術総合研修所・5/17）
- ・森林生態系スペシャリスト養成研修 講師（林野庁関東森林管理局・5/17）
- ・第4回桂川生物多様性フォーラム ～桂川の河川環境と生物多様性保全～ 後援（桂川生物保全ネットワーク・5/20）
- ・講演「ユネスコエコパークの取り組みと南アルプスの可能性について」（南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会・5/24）
- ・放送大学面接授業「生物多様性保全と国有林管理」講師（放送大学・5/26）
- ・第49回沖縄生物学会「生き物を調べることからみえてくるもの～自然しらべのご紹介」講演（沖縄生物学会・5/26）
- ・講演「COP11 ハイデラバードに向けて」（国連生物多様性の10年市民ネットワーク・5/27）
- ・ソニーシティ大崎&Think Park 自然観察会（ソニー㈱、㈱明電舎・5/29、9/4、11/13、2/26）
- ・『図説 日本の山』原稿執筆（朝倉書店・5/30 発行）
- ・2012年度彩の国環境地図作品展 後援（彩の国環境地図作品展実行委員会・6/1～3/31）
- ・シンポジウム「いのちを育む 印西の原っぱ」共催（亀成川を愛する会・6/2）
- ・日弁連公害対策・環境保全委員会 勉強会「生物多様性オフセットについて」ヒアリングスピーカー（日本弁護士連合会・6/8）
- ・麻布大学 自然保護 NGO の仕事紹介 講師（麻布大学獣医学部・6/11）
- ・水源 森の楽校づくり～地域散策プログラム&マップづくり 講師（NPO 法人 きらり水源村・6/18～19）
- ・江戸川大学 講義「環境と教育」（江戸川大学・6/21）
- ・講義「日本の森と赤谷プロジェクトの取り組み」（群馬県立利根実業高等学校・6/22）
- ・新聞紙面「ジュゴンを探して 基地問題にゆれる辺野古沖」取材対応（毎日新聞社・6/24）
- ・GPS 講習会講師（柏自然ウォッチャーズ・6/26）
- ・NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 20 周年記念公開セミナー「自然観察と自然保護 原点に戻って」講演（NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・6/30）
- ・リニア中央新幹線を考える相模原連絡会セミナー 講師（リニア中央新幹線を考える相模原連絡会・7/1）
- ・持続可能な開発のための生態系を活用した災害リスク削減研修 講師（国際自然保護連合(IUCN)・7/5～6）
- ・尾瀬を知るフィールド講座「至仏山の自然を科学する」講師（尾瀬保護財団・7/7～8）
- ・第22回環境アセスメント動物調査手法講演会「市民によるモニタリング調査の意義」（日本環境動物昆虫学会・7/7）
- ・第15回 日本水大賞 後援（日本水大賞委員会・7/7～11/30）
- ・平成24年度環境保全特別研修 講師（独立行政法人 水資源機構・7/23）
- ・みなかみ町立新治小学校サマースクール 講師（新治小学校・7/23）
- ・Sony Student Project Abroad (China) 自然観察会（ソニー㈱・7/26）

- ・国際チャリティー協会 勉強会講師（NPO 法人国際チャリティー協会アムリタハート・7/29）
- ・平成 24 年度 夏休み子供自然観察教室 後援（利根沼田自然を愛する会・7/29）
- ・第 3 回国内地指定自然公園の有効性・課題検証専門家会合（WCPA-J 国際教養大学地域環境研究センター・8/3）
- ・エコキッズ探検隊 2012「デジタルカメラで自然観察&フォトフレーム作り」協力（㈱ニコン・8/17）
- ・林野庁「生物多様性保全」研修 講師（森林技術総合研修所 8/21、9/10、10/16～17）
- ・日比谷公園アートプログラム 企画協力（㈱荏原製作所・8/22）
- ・「自然と調和した地熱開発に関する検討会議」第 5 回会合ヒアリングスピーカー（環境省自然環境局・8/29）
- ・浸透性農業に関する IUCN 東京フォーラム 後援（IUCN 浸透性農業タスクフォース、一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト・9/2）
- ・月刊『ダイバー』10 月号原稿執筆（ダイバー㈱・9/10 発行）
- ・カブトガニの IUCN SCC（Species Survival Commission）および勧告への共同賛同（シンガポール自然協会、バードライフ・インターナショナル・アジア・ディビジョン・9/6～15）
- ・平成 24 年度 JICA 集団研修「生物多様性情報システム」コース 講師（財団法人自然環境研究センター・9/19）
- ・「第 7 回サニエルおやこネイチャーツアー in 三浦半島」企画協力（㈱サニクリーン・9/22～23）
- ・日本環境ジャーナリストの会「生態系サービスをどう報道するか？」視察対応（日本環境ジャーナリストの会・9/22～23）
- ・生物多様性地域セミナー in 名古屋 講師（国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）・9/29）
- ・造園学会誌「ランドスケープ研究」特集「自然エネルギーとランドスケープ」原稿執筆（社団法人日本造園学会・10 月発行）
- ・「環境保全に取り組む市民大集合 2012」記念講演（長野県・10/6）
- ・COP11 サイドイベント「Promoting biological diversity and ecosystem services in socio-ecological production landscapes」共催（環境省自然環境局生物多様性企画室・10/10）
- ・里山自然学校はずみの里 創立十周年記念講演会（NPO 法人里山自然学校はずみの里・10/14）
- ・読売新聞「論点」記事掲載「改正環境アセスメント法 国全体の視点で評価を」（読売新聞社・10/17）
- ・湿地のグリーンウェイブ 2012&ラムサール COP11 報告会 後援（ラムサール・ネットワーク日本・10/20）
- ・「秋を楽しむ観察会」 in 日比谷公園 後援（自然観察指導員東京連絡会（NACOT）・10/21）
- ・麻布大学授業「キャリア形成論」講師（麻布大学獣医学部・10/29）
- ・国連生物多様性の 10 年日本委員会 第 2 回生物多様性全国ミーティング 講師（国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）・11/3）
- ・シンポジウム「二次的自然の管理と生物多様性キャンパス戦略」発表（明治大学・11/11）
- ・環境省環境調査研修所 研修講義「綾の照葉樹林プロジェクトについて」（環境省環境調査研修所・11/14）
- ・「第 8 回わくわくアートコンテスト」審査員（高尾の森わくわくビレッジ・11/17、12/8）
- ・第 24 回日本環境動物昆虫学会年次大会・市民公開シンポジウム「どうつなげる生物多様性」講演（日本環境動物昆虫学会・11/18）
- ・シンポジウム「ユネスコエコパークが描く只見の未来」後援（只見町・11/18）
- ・生物多様性保全公開セミナー「先進事例に学ぶ、生物多様性をベースとした国づくり・地域づくり」事例紹介（JICA 地球環境部・11/19）
- ・第 5 回 CES 環境講座「考えよう、伝えよう、暮らしから見つめる生物多様性」講師（CES（千代田エコシステム）推進協議会・11/21）
- ・講演会「生命のにぎわいをみんなで調べる方法をさぐる」（琵琶湖博物館・11/24）
- ・第 28 回水郷水都全国会議大会 in 津南 後援（千曲川・信濃川復権の会・11/24～25）

- ・ESD テーマ会議 2012 ワークショップ「生物多様性と ESD」ファシリテーター（「ESD の 10 年・世界の祭典」推進フォーラム・11/28）
- ・ロータリークラブ例会 講演「自然保護を考える」（東京小石川ロータリークラブ・1/25）
- ・『人間会議』2012 年冬号 原稿執筆（㈱宣伝会議・12/5 発行）
- ・千葉大学 講義「環境倫理学」（千葉大学文学部・12/7、12/14）
- ・シンポジウム「富士山にカナダガンは似合わない ～どうする富士山周辺の外来種カナダガン」後援（カナダガン調査グループ、NPO 法人神奈川県自然保護協会・12/8）
- ・講演会「枚方の暮らしから考える生物多様性」後援（枚方市・12/9）
- ・第 2 回四万十生物多様性町づくり検討委員会 講演会「宮崎県綾町のユネスコ・エコパーク登録に学ぶ」（社団法人生態系トラスト協会・12/11）
- ・大草谷津田いきものの里スキルアップ講座 講師（千葉市・12/14）
- ・平成 24 年度環境保全戦略講座「グローバルで考えよう生物多様性企画書作りワークショップ」講師（独立行政法人 環境再生保全機構・12/15）
- ・電力中央研究所主催セミナー 講師（社団法人電力中央研究所・12/18）
- ・第 2 回 SDGs(持続可能な開発目標)勉強会 講師（Rio+20 地球サミット NGO 連絡会・12/25）
- ・洋上風力発電が鳥類に与える影響に関するシンポジウム 後援（財団法人日本野鳥の会・1/13）
- ・平成 24 年度地球環境基金助成金「RI0+20」関連助成活動成果発表会 話題提供（独立行政法人 環境再生保全機構・1/20）
- ・シンポジウム「ジャーナリズムは「自然の恵み」をどう伝えるか？ ～利根川流域の生態系サービス」事例発表（日本環境ジャーナリストの会・1/30）
- ・平成 24 年度哺乳類等生物情報収集・提供システム運用体制等検討業務 技術指導（環境省自然環境局）
- ・第 12 回草津市こども環境会議 後援（同実行委員会・2/2）
- ・「南アルプスフォーラム in やまなし～ユネスコエコパーク登録に向けて」基調講演（南アルプス世界自然遺産登録推進協議会・2/2）
- ・KiNOA (Kirigamine Nature Observation Association) インタプリテーション 後援（KiNOA・2/2～3、3/2～3）
- ・東京ガス 省エネルギー講演会「チョウの分布の変化と要因 2011 年自然しらべ」（東京ガス㈱・2/5）
- ・谷津田の自然保護ボランティア育成講座 講師（千葉市・2/6）
- ・講演会「海とともに生きる～日本の海岸は今～」共催（海の生き物を守る会・2/9）
- ・緊急シンポジウム「そうふけばらのキツネを守れ！」共催（亀成川を愛する会・2/9）
- ・第 12 回自然環境シンポジウム「山・川・海 最終章 ～昔暴れ川・今どぶ川 こんな川に誰がした」後援（酒匂川水系の環境を考える会・2/17）
- ・沖縄大問題シンポ「STOP! 高江・辺野古・泡瀬・大嶺」～米軍基地、公共事業から沖縄の自然と暮らしを守る～ 講演（沖縄・生物多様性市民ネットワーク・2/23）
- ・シンポジウム「温泉発電ってなに？～温泉エネルギーの有効活用」パネリスト（環境省・3/1、3/18、3/19）
- ・2012 九州環境教育ミーティング in 錦江湾 後援（九州環境教育ミーティング・3/2～3）
- ・第 19 回ヒトと動物の関係学会学術大会シンポジウム パネリスト「現在のエコツーリズムの課題」（ヒトと動物の関係学会・3/9）
- ・アース・ビジョン地球環境映像祭 20+1 協力（アースビジョン組織委員会・3/22～24）
- ・あいち沖縄会議学習会「サンゴの専門家、辺野古の海を語る～アセスメント評価書をめぐって」報告（あいち沖縄会議・3/23）

・グローバルコンパクトジャパン 環境経営分科会勉強会 講師（社団法人グローバルコンパクトジャパンネットワーク・3/25）

別表 5. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
460	5/19～20	静岡県	静岡県立富士山麓山の村	－	39
461	6/1～3	神奈川県	神奈川県立かながわ女性センター	神奈川県自然観察指導員連絡会（グリーンタフ）	49
462	6/8～10	東京都	高尾の森わくわくビレッジ	NACS-J 自然観察指導員東京連絡会（NACOT）・五洋建設株式会社	56
463	7/27～29	秋田県	あきた白神体験センター	秋田県自然観察指導員連絡協議会・秋田県	43
464	9/17	山梨県	櫛形山県民の森ウッドビレッジ伊奈ヶ湖	南アルプス市	46
465	9/28～30	兵庫県	西宮市立甲山自然の家	NACS-J 自然観察指導員兵庫連絡会	53
466	10/6～8	神奈川県	富士ゼロックス塚原研究所	富士ゼロックス株式会社	61
467	10/26～28	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	山口県自然観察指導員協議会	30
468	11/2～4	埼玉県	埼玉県立小川げんきプラザ	NPO 法人自然観察指導員埼玉	46
469	11/16～18	千葉県	千葉県立手賀の丘少年自然の家	千葉県	64
470	12/1～2	群馬県	猿ヶ京温泉多目的集会所	赤谷プロジェクト地域協議会	38
471	2/10～11	徳島県	マリンパレット徳島	生物多様性とくしま会議・徳島県	36

別表 6. NACS-J 自然観察指導員研修会

NO	開催日	開催地	テーマと会場	共催団体	参加者数
152	10/7～8	愛知県	「水辺の生きものから里山を学ぶ」／あいち海上の森センター	愛知県	21
－	10/8	和歌山県	「私にもできる体験型自然観察会の第一歩」／和歌山県立紀伊風土記の丘	和歌山県	20
153	12/8～9	大分県	「ネイチャ・フィーリング研修会」／陣屋の村	大分県自然観察連絡協議会	32